

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域福祉の理論と方法 I Community Development I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士受験資格指定科目)	特記なし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
1年次必修科目の修得				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
社会福祉基礎構造改革や社会福祉法の施行により、今後の社会福祉の原点は地域福祉にあるとされ、法的にも位置づけられている。少子高齢社会が進む現代社会において地域福祉の推進は重要であり、社会福祉の専門職である社会福祉士の担う役割は大きいといえる。本科目では、地域福祉を理解するために、地域福祉の基本的な考え方・歴史的発展過程・理念と概念・社会福祉サービス等を学習する。				
授業の目標				
①地域福祉の領域や対象を説明できるようにする。 ②地域福祉の発展過程を通して、地域福祉の重要性を説明できるようにする。 ③社会福祉サービスと地域生活をつなげて捉えることができるようにする。 ④地域福祉推進に必要な諸活動を概説できるようにする。				
授業の方法				
教科書を中心とし、資料や視聴覚教材を適宜取り入れる講義形式である。				
学習の成果（学習成果）				
地域福祉の意義と機能に関する概要を理解し、社会福祉士の専門性をつなげて理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、社会福祉士の法的位置付けと専門性 レポート			
第2回目	地域福祉の基本的な考え方 ① 生活と福祉、地域の捉え方、地域福祉の意義			
第3回目	地域福祉の基本的な考え方 ② 地域福祉推進における機能と専門性、実践例			
第4回目	地域福祉の発展過程 ① 諸外国の展開			
第5回目	地域福祉の発展過程 ② 日本の展開			
第6回目	地域福祉の理念と概念 ① 社会福祉基礎構造改革と地域福祉			

第7回目	地域福祉の理念と概念 ② 地域福祉の理念と理論	
第8回目	地域福祉の理念と概念 ③ 地域福祉の構成要素、コミュニティ	
第9回目	地域福祉の理念と概念 ⑤ 人権擁護、権利擁護、自立支援、社会的包摂等	
第10回目	社会福祉サービスと地域ケア ① 居宅サービスおよび関連サービスと地域生活	
第11回目	社会福祉サービスと地域ケア ② 施設サービスと地域生活 (レポート2 提出：第12回目)	
第12回目	自立支援の考え方と支援 要援護者の個別支援と集団支援	
第13回目	ボランティア活動と福祉教育	
第14回目	地域福祉推進体制の概要	
第15回目	まとめ (地域福祉の歴史・理念・ケアの実際を概観する)	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	15% テキストを用意し、ノートを取りながら積極的に参加している。
	レポート	15% 「社会福祉士の専門性」について適切にまとめ、期日を守り提出している。
	調査報告書	
	小テスト	70% 2～15回は、知識の定着を図る穴埋め問題 (15問程度) を出します。5%×14回=70%。
	試験	
	発表内容 (態度含む)	
	その他	
教科書と参考図書		
教科書：やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 「よくわかる地域福祉第5版」 ミネルヴァ書房 参考図書：新・社会福祉士養成講座9 「地域福祉の理論と方法〈第3版〉」 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
テレビのニュースや新聞記事等から、日常生活における社会問題に関心をもってほしい。社会福祉士としての視点から地域福祉を捉えてほしい。		